
[成果情報名] いぐさ品種「いそなみ」の自然染土100%による泥染め法

[要約] いぐさ品種「いそなみ」を自然染土100%で泥染めする場合、三原染土と三原白染土を配合比1：2で混合し、染土液の濃度をボーマ比重23～25度で行うと部分変色茎が目立たず色調が優れ、畳表の評価が高い。

[キーワード] いぐさ、自然染土、泥染め、色調、畳表

[担当部署] 筑後分場・水田高度利用チーム

[連絡先] 0944-32-1029

[対象作物] いぐさ

[専門項目] 農産加工

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

本県産畳表は、外国産畳表との差別化を図るため、平成15年産から自然染土100%でいぐさの泥染めを行うよう指導している。しかし、作付け面積の約3割を占めるいぐさ品種「いそなみ」は、「筑後みどり」に比べて部分変色茎が多い年次があり、その場合自然染土による泥染めでは畳表に加工した後も部分変色茎が目立ち、畳表品質が低下することがある。

そこで、「いそなみ」の部分変色茎が目立たず、色調が優れる畳表生産のための自然染土の種類、配合比及び染土液の濃度を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．三原白染土は、新備後白染土に比べて、畳表の色調が明るく（ L^* が大）、緑味と黄味が淡く（ a^* 値が大、 b^* 値が小）、色調及び部分変色茎の官能評価点が高い（表1）。
- 2．三原染土（青染土）に対する白染土の配合比では、染土の種類によって配合比の影響が異なり、三原白染土を配合比1：2とした場合の色調の官能評価点が最も高い（表1）。
- 3．染土液の濃度（ボーマ比重）は、25度よりも23度の方が畳表の緑味が淡くなるものの、色調及び部分変色茎の官能評価点には差はみられない（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．いぐさ品種「いそなみ」の畳表品質向上のための泥染め技術資料として活用できる。

[具体的データ]

表 1 色調測定値と色調及び部分変色茎の官能評価点 (平成14、15年)

	色調測定値			官能評価点	
	L *値	a *値	b *値	色調	部分変色茎
白染土の種類	**	*	**	*	*
三原白	47.6	-4.67	9.5	7.8	8.1
新備後	47.0	-4.94	10.7	3.8	4.8
配合比(青:白)	ns	ns	ns	ns	ns
1:1	47.0	-4.85	10.2	5.4	6.4
1:2	47.4	-4.81	10.0	6.6	6.6
1:3	47.4	-4.76	10.0	6.6	6.6
濃度(ボーム比重)	ns	*	ns	ns	ns
23度	47.2	-4.68	10.2	6.0	6.1
25度	47.3	-4.93	10.0	5.3	6.6
種類 × 濃度	ns	ns	ns	ns	ns
種類 × 配合	ns	ns	ns	+	ns
三原 × 1:1	47.5	-4.65	9.8	5.0	7.4
三原 × 1:2	47.6	-4.72	9.4	9.0	8.7
三原 × 1:3	47.7	-4.66	9.3	8.4	7.6
新備 × 1:1	47.6	-5.05	10.6	5.7	5.5
新備 × 1:2	47.2	-4.87	10.6	4.2	4.5
新備 × 1:3	47.1	-4.87	10.8	1.6	4.5
濃度 × 配合	ns	ns	ns	ns	ns

- 注) 1. **、*、+は各々1、5、10%水準で有意差あり、nsは有意差なし。
 2. 色調測定値はのL*は明るさ(大ほど明るい)、a*は緑味(小ほど濃い)、b*は黄味(大ほど濃い)を示す。
 3. 官能評価点の色調は、値が大きいほど色調が良好。部分変色茎は、値が大きいほど部分変色茎が目立たず、畳表の品質が良好であることを示す。評価者は生産者、流通業者及びいぐさ関係者の平成14年は計21名、15年は計53名。

[その他]

研究課題名：イグサ品種「いそなみ」の自然染土による泥染め法の確立

予算区分：経常

研究期間：平成15年度(平成14~15年)

研究担当者：井上拓治、北原郁文、中村厚司、福島裕助